

令和元年度 第2回霞ヶ浦学講座 霞ヶ浦入門編Ⅱ「SDGs×霞ヶ浦」 実施報告

実施日時：令和元年6月30日（日）13:30-15:30

場所：霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール

講師：小川達己（霞ヶ浦環境科学センター嘱託） 参加者数：38名

テーマ：「霞ヶ浦×SDGs」

要旨

環境問題を捉える際には、「有限」「循環」「多様性」「相互依存性」の視点でみるのが大事です。例えば、ごみ問題などは、資源を利用するという点で「有限」、生産—流通—消費—廃棄—（再生）という点で「循環」の視点が入ってきます。霞ヶ浦の問題は、特に水資源の「循環」利用、生物「多様性」などに関連が深いといえます。

日本では、明治時代には公害の原点ともいわれる足尾銅山鉍毒事件、1950年代後半から1960年代にはいわゆる四大公害問題が発生しました。高度経済成長とともに公害問題が社会問題となり、公害対策基本法などの法律が整備されてきました。規制、対策技術などにより問題は改善されてきましたが、その一方でライフスタイルの変化に伴いごみ問題など「都市・生活型公害」といわれるものが顕在化してきました。そして経済活動のグローバル化と関連しますが80年代以降オゾン層破壊、地球温暖化、森林破壊など地球環境問題も顕在化してきました。

世界的には、この半世紀をみると国連人間環境会議(1972年)、国連環境開発会議(地球サミット、1992年)、国連持続可能な環境会議(リオ+20、2012年)などで世界の国々が一同に介し、環境問題、資源、環境と経済などについて議論を交わしてきました。この世界の様々な動きの中を見るうえで、持続可能な開発の定義「*将来の世代のニーズ(欲求)を満たす能力を損なうことなく、現在の世代の欲求も満足させるような開発*」(ブルントラント報告、1987年)は国際会議に大きな視座を与えているといわれています。

また、地球サミット後日本では、環境基本法が制定され、環境基本計画が定められました。環境基本計画は多くの県、市町村で策定されています。

霞ヶ浦では、1960年代後半頃より富栄養化による水質の悪化が顕著となり、茨城県は「富栄養化防止条例」(その後、「霞ヶ浦水質保全条例」に全面改正)を制定し、また「湖沼水質保全特別法」に則り、「霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画」を策定し計画的に水質保全に取り組んでいます。

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals 以下「SDGs」)は2015年国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標になります。17の目標、169のターゲットがあります。「普遍性」、「包摂性」、「参画性」、「統合性」、「透明性」などの特徴があります。目標は貧困、飢餓、衛生などの問題から、いわゆる環境問題、まちづくり、経済成長、ジェンダー、働き方など経済、社会、環境と多くの分野を網羅しているといえます。

日本政府は、SDGs 推進本部を内閣に設置し、「SDGs 実施指針」策定、ステークホルダーミーティング、アクションプランを作成し取り組んでいます。

企業向けには、「SDGs 実施指針」の中では、民間企業の社会的問題の解決に取り組んでいくことが、SDGs 達成の鍵ともされています。また、経団連も SDGs 達成を柱として行動憲章を改定しています。2019 年 5 月には経済産業省により「SDGs 経営ガイド」が定められ、新たな、さらなる取り組むための羅針盤が提示されています。

この浸透しつつある SDGs ですが、多すぎる目標、法的拘束力がない、理解が容易ではないともいわれ、より実効性のあるものにするには、わかりやすく伝える、インセンティブを付与することなどが、今後必要になってくるかもしれません。

水問題との SDGs の関連をみますと、目標 6 「安全なトイレを世界中に」、目標 14 「海の豊かさを守ろう」、目標 15 「陸の豊かさを守ろう」などで水へのアクセスや衛生面の改善、富栄養化・海洋汚染の防止、生態系(サービス)の保全、持続可能な利用など世界的にも課題となっている事象が取り上げられていると感じます。湖沼に関しては十分な記述がみられないともいわれていますが、霞ヶ浦の課題解決にも共通するゴール、ターゲットを掲げていると思います。

この SDGs の目標を設定し社会問題や解決に向けての取り組み方などを示している点は、行政の総合計画、環境基本計画などと共通しています。茨城県でも、「霞ヶ浦」に関連して総合計画、環境基本計画、湖沼水質保全計画などで「将来像」「長期ビジョン」または、「水質目標」を設定し、その実現に向けた施策を実施しています。具体的には、「茨城県総合計画」の中で霞ヶ浦の将来像として「霞ヶ浦とともに生きる」を掲げ未来像、すなわち持続可能な目標にふれています。

SDGs は、未来像を描くことの重要性を教えてくれています。また世界的にも共通言語となってきました。行政計画には、そのエッセンスはもともと反映されており、今後さらに持続可能な視点を盛り込むことが、求められてくると思います。

市民にとっては、SDGs という共通言語を通して、社会の課題を自分ごととして捉え、「My SDGs」といった身近なことから目標を定め、取り組んでいくことが重要だと思っています。

